

## サハ共和国・ヤクーツクだより ③

杉嶋俊夫

私のヤクーツクでの滞在ものこり2週間。現地からの「タイムリーな」たよりは、これで最後となります。今回は、ヤクーツクと日本の交流と、それを支える柱ともいべき日本語教育についてお話します。

### ■ 日本語を学ぶ若者たち

ヤクーツク市内にある北東連邦大学では約50名の学生が日本語を学んでいます。教師はサハ人4名、日本人1名。学内スピーチコンテストにはほぼ全員の学生が出場し、優勝者はロシア極東地域大会に、そこで勝ち残ればCIS諸国大会に出られます。

なんと昨年のCIS大会では北東連邦大学の学生が1位になりました。本学は、以前は日本とのつながりが弱かったのですが、ここ数年の間に3つの日本の大学と協定を結び、4つ目の協定の話も浮上しています。現在、4名が日本に留学中です。

### ■ 日本語教育、サハと日本をつなぐ 架け橋

あまり知られていないのですが、世界で最初に日本語教育を始めたのはロシアでした。そのロシアで2番目の日本語学校がヤクーツクに作られました。18世紀中頃のことでした。その学校は閉鎖されましたが、ソ連が崩壊してロシア連邦に変わる頃、ヤクーツク国立大(現 北東連邦大)で日本語教育が復活しました。ヤクーツク市内には日本語の授業が行われている学校もあり、日本語は学んでいないが日本に関心を持つ若者も、大勢います。

### ■ “近くなりつつある国”、サハ

サハ共和国を訪れる日本人は多いとは言えませんが、サハの人々は日本をアジアの遠い国だとは思っていません。ヤクーツク市内を見ても、自動車の多くは日本車で、日本料理店が5軒あり(味のほうはだいぶアレンジされていますが・・・)、海苔、醤油、だしなどはあちこちの食料品店で売られています。最近、実験的に、サハと日本を結ぶ直行便が飛びました。

搭乗時間は長いですが数年前の2分の1に近い値段でサハに行けるルートもできたようです。将来、サハと日本の若者の交流が本格的に始まったら、きっと他の地域には真似のできない面白いことが色々できるでしょう。それまでに一度またヤクーツクを訪れてみたいのですが、いつになることでしょうか……。



1年生の日本語劇。ラストは「幸せなら手をたたこう」で明るく終わりました。1年生は見事なアニメキャラクターの絵を描く学生、歌唱力抜群の学生などユニークな人材が豊富……。2年生とともに、来年度(今年9月)のさらなる活躍が期待されます。



3年生による着付けのデモンストレーション。(ヤクーツク市立図書館のイベント「バーチャル日本旅行」にて) ロシア語で見事に着付けのしかたを説明していました。このイベントで、ソ連時代から日本に関心を持つ方々が大勢いらっしゃることを知りました。



日本語クラスの学生たちがフェアウェル・パーティーを開いてくれました。この写真に映っているのは4年生(写真中央が杉嶋)。「世界一仲がいい」と言いたくなるほど心優しい、ほのぼのとしたクラスでした。ちなみに、ロシアの大学は5年制で、今、4年制に移行しつつあります。



ヤクーツク福岡間を、実験的に初めて直行便が飛びました。写真は、4月中旬に市内で見かけた搭乗希望者募集の看板。ヤクーツク成田間の直行便が誕生するのはいつでしょうか。

**杉嶋俊夫 略歴：**東京都町田市生まれ。千葉大学卒。大学で認知心理学を専攻、途中で言語学に転向、シベリア先住民の言語を学ぶ。院在籍時に西シベリア・トムスクの大学に留学したことがきっかけで、トムスク市やロシア西部・リャザン市にある大学で日本語を教える。今回の派遣も、リャザン大学の時と同じ日露青年交流センターの派遣プログラムによる。